

岡山県金融経済動向

1. 概況

- 県内景気は、海外経済の減速や円高などの影響から、持ち直しのペースが鈍化している。
- すなわち、最終需要面をみると、個人消費は、冬物衣料や一部高額品などに動きがみられるほか、乗用車販売も堅調であるなど、底堅く推移している。設備投資は、製造業を中心に持ち直しており、住宅投資も、持ち直し基調を続けている。一方、輸出は、海外経済の減速や円高などの影響から弱含んでおり、これを受けて県内主要製造業の生産は、このところ弱含んでいる。公共投資は、基調として減少している。

雇用・所得環境は、依然として厳しい状況にあるが、一部に持ち直しの動きがみられる。

2. 実体経済

(1) 個人消費

- 個人消費は、底堅く推移している。
すなわち、12月の販売動向をみると、百貨店およびスーパー売上高は、気温の低下に伴い冬物衣料が好調に推移したほか、海外ブランド品などの一部高額品に動きがみられている。乗用車販売は、震災以降の販売受注が高水準であることに加えて、新車投入効果などもあって、堅調に推移している。家電販売は、地上デジタル放送完全移行前の駆け込み需要の反動減がみられている。この間、旅行取扱高は、国内旅行、海外旅行ともに前年を上回ったほか、主要観光地への入り込みも、前年を上回った。

(2) 設備投資

- 県内企業の設備投資は、製造業を中心に持ち直している。

すなわち、12月短観調査における23年度の設備投資計画をみると、非製造業では、小売、対事業所サービスを中心に前年を下回る計画となっている。一方、製造業では、素材業種が化学を中心に減少計画となっているものの、加工業種が輸送用機械を中心に増加計画となっているため、前年を上回る計画となっている。この結果、全産業ベースでは、前年を上回る計画となっている。

なお、前回調査（9月短観）と比較すると、非製造業では上方修正となったものの、製造業が下方修正となったことから、全産業ベースでも下方修正となった。

建設投資の先行指標である着工建築物床面積（非居住用〈10～11月〉）は、前年を下回った。

(3) 住宅投資

- 住宅投資は、持ち直し基調を続けている。

11月の県内新設住宅着工戸数をみると、持家、貸家、マンションで前年を下回ったため、全体でも前年を下回った。

(4) 公共投資

- 公共投資は、単月の振れはあるものの、基調として減少している。

発注の動きを示す県内公共工事保証請負額をみると、12月は、「国」、「県」で前年を上回ったものの、「市町村」、「独立行政法人等」、「その他の公共的団体」で前年を下回ったため、全体でも前年を下回った。

(5) 輸 出

- 輸出は、海外経済の減速や円高などの影響から、弱含んでいる。

11月の県内輸出（通関実績）をみると、アジア向けを中心に前年を下回った。

(6) 生産・出荷・在庫

- 11月の県内鉱工業生産指数（直近計数）の季調済前月比は、鉄鋼、輸送機械、電子部品・デバイスを中心に低下したことから、全体では2か月振りの低下となった。

この間、出荷指数（季調済前月比）は、石油・石炭製品、化学、食料品を中心に上昇したことから、全体では2か月連続の上昇となった。また、在庫指数（前年同月比）は、化学、一般機械、プラスチック製品を中心に上昇したことから、全体では2か月振りの上昇となった。

- 県内主要製造業の最近の生産動向（10業種、付表参照）をみると、造船は、豊富な受注残を背景に、高操業が続いている。工作機械は、緩やかに持ち直している。また、石油精製、農機具は、底堅く推移している。一方、自動車および石油化学は、海外経済の減速や円高の影響から、弱めの動きとなっている。鉄鋼は、海外経済の減速や円高、タイの洪水の影響から、弱含んでいる。この間、電気機械、耐火物は、弱含んでおり、繊維も、低水準の生産が続いている。

(7) 雇用・所得

- 雇用・所得環境は、依然として厳しい状況にあるが、一部に持ち直しの動きがみられる。

労働需給面をみると、有効求人倍率は、なお低水準ながらも、緩やかな持ち直し基調が続いている。また、11月の所定外労働時間は、前年を上回っている。雇用面をみると、11月の常用労働者数は、前年を上回っている。この間、解雇者数は落ち着きをみせており、雇用保険受給者数も減少傾向となっている。

賃金面をみると、11月の一人当たり現金給与総額は、前年を下回っている。

(8) 物 価

- 12月の岡山市消費者物価指数（平成22年基準、生鮮食品を除くベース）は、教養娯楽、家具・家事用品などを中心に前年を下回った。

(9) 企業倒産

- 12月の県内企業倒産（東京商工リサーチ調べ、負債総額10百万円以上）をみると、倒産件数、負債総額ともに前年を上回った。

3. 金 融

(1) 実質預金

- 12月の県内実質預金をみると、全体の伸び率は低下した。

(2) 貸 出

- 12月の県内貸出をみると、全体では前年を下回った。

(3) 貸出約定平均金利

- 12月の新規貸出約定平均金利（総合ベース）、ストック金利（同）ともに、前月比低下した。

以 上

内容についてのご照会は下記までお願いします。

〒 700-8707 岡山市北区丸の内1-6-1 日本銀行岡山支店 総務課

TEL 086-227-5111（代表）

FAX 086-227-6350

ホームページアドレス <http://www3.boj.or.jp/okayama/>

(付 表)

主 要 製 造 業 の 生 産 動 向

業 種	足 も と の 動 向
自 動 車	海外経済の減速や円高の影響から、弱めの動きとなっている。
造 船	豊富な受注残を背景に、高操業が続いている。 造船部門では、外航船を中心に豊富な受注残を抱えており、高操業を続けている。また、非造船部門でも、中・小型船舶向けディーゼルエンジンを中心に、高めの生産を続けている。
石油精製	底堅く推移している。 冬場の灯油需要などにより、原油処理量は底堅く推移している。
石油化学	海外経済の減速や円高の影響から、弱めの動きとなっている。 製品別の動向をみると、ポリエチレンやポリスチレンでは、海外経済の減速や円高による輸入増加の影響がみられている。このような中間原料の動きを映じて、基礎原料であるエチレン、プロピレンについても、弱めの動きとなっている。
鉄 鋼	粗鋼生産量は、薄板類の需要鈍化などを背景に、弱含んでいる。 製品別の動向をみると、薄板類は、海外市況の軟化や円高、タイの洪水の影響から、輸出向けを中心に弱含んでいる。形鋼類、棒鋼類は、建設向けの需要が弱含んでいることから、低めの生産水準となっている。この間、厚板類は、造船メーカー向けを中心に需要が堅調に推移している。
耐 火 物	鉄鋼向け需要の一服などを背景に、生産は弱含んでいる。
電気機械	弱含んでいる。 製品別にみると、電子部品、スイッチは、スマートフォンなど海外向け受注の一巡から、弱含んでいる。この間、デジタルビデオカメラは、海外への生産移管に伴い、生産は減少している。
織 維	全体としては低水準の生産が続いている。 製品別にみると、綿織物、合繊織物、ジーンズは、安価輸入品との競合などから、低水準の生産が続いている。一方、作業服は、このところ震災復旧に向けた需要増がみられており、全体として生産量は下げ止まっている。また、学生服は、少子化の影響によって市場は長期的には縮小傾向にあるものの、足もとの需要は安定しており、生産水準は横ばいとなっている。
工作機械	緩やかに持ち直している。 NC旋盤、MC（マシニングセンター）は、中国など海外向けを中心に緩やかな持ち直しが続いている。
農 機 具	底堅く推移している。 製品別にみると、コンバインは、底堅く推移している。一方、携帯用刈払機は、主力の欧州向けが円高の影響などを背景に、減少している。